

## 編集後記

本号の巻頭言は白土博通教授にお願いいたしました。

「趣味と実益 一風と構造物の維持管理」と題して、社会インフラの維持管理技術の高度化、先進化が求められている状況の中でも経済的な維持管理の必要性について貴重なご意見を頂いております。また、個々のインフラ（橋梁）を取り巻く環境を個別に把握し、弱点をあらかじめ予測しておくことで効率的な維持管理につながるのではないかというお考えから、海塩粒子の構造物表面付着機構に関する研究内容を通して趣味的とされながらも派生的に新たに見出した課題に挑戦していく面白さについて心に響くご指導を頂いております。先生にはご多忙のところ玉稿をお寄せ頂き、誠に有り難うございました。誌面を借りまして厚く御礼申し上げます。

国土交通省が橋などのインフラ点検の実質的な義務化について提言がされ、各高速道路会社より大規模修繕・更新の計画が発表されてから数年が経過しており、インフラの維持管理・更新の時代に本格的に突入したことが言えようかと思えます。この技報においても、上記に関連して、当社が施工を実施した東京都選定の歴史的建造物でもある蔵前橋、白鬚橋の長寿命化工事の施工内容について報告しております。

その他にもFRPを用いた歩道用拡幅床版への適用性に関する研究や、特殊な条件下におけるサブマージアーク溶接の施工性に関する研究、また当社が得意とする鉄道線上空を跨ぐ橋梁の架設技術などについて報告しております。このように、宮地のFRP製品の開発や新設橋梁の製作・架設から既設橋梁の維持管理に至るまで幅広い技術を報告することにより、橋梁に関する技術の向上に貢献できれば幸いです。

最後になりましたが、執筆者を始め多くの関係者のご協力により本号を発刊することが出来たことに感謝致します。また、次号は区切りとなる第30号となります。

## 宮地技報編集委員会

委員長	上原 正			
副委員長	平島 崇嗣	百瀬 敏彦		
委員	安藤 正志	梅沢 真悟	奥村 恭司	
	小原 久	齊藤 直政	菅原 智	
	戸井口 由和	永谷 秀樹	野澤 栄二	
	村井 向一	村上 貴紀		
事務局	稲田 博史	田村 修一		
アドバイザー	西垣 登			

### 宮地技報 第29号

発行日 平成28年8月31日

発行所 宮地エンジニアリング株式会社

〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町19番19号

TEL 03(3639)2111(代)

印刷所 望月印刷株式会社